

第9回 地域交流ワークショップ「地域課題への挑戦」

企業から見た「つくば」における産学官連携

所 属 茨城県研究開発型企業交流協会 IRDA 副会長 ツクバリカセイキ(株) 中山俊明

<http://irda.jp> mail : jimukyoku@irda.jp

1. 研究開発型企業交流会 IRDA

IRDAは、茨城県に拠点をもち、研究者向けの試作や開発に積極的に取り組んでいる中小企業の集まりである。研究開発型ベンチャー企業群として県の認定を受け、現在 33 社と若干の個人会員を要する任意団体として、ツジ電子の社会長を中心に精力的に活動している。企業構成としては、情報・システム系 2 社、電気・電子系 3 社、理化学機器系 5 社、環境系 5 社、材料系 2 社、熱機器系 2 社、機械系 10 社、食品系 1 社、真空系 2 社、その他 1 社となっている。

その守備範囲は広く、メンバー内相互間の受発注、協力関係も多い。今後は、この多様性を生かし、技術シーズを拡大して研究開発現場への製品提供のメッカになることを目指している。

2. IRDAと研究所との関係

良く知られているように、つくばには、国立の研究所が多く立地し、IRDAのメンバーにとっては、重要な顧客であり、また情報源となっている。定例となっている、産総研や物材研等での製品展示会により、研究者レベルとの交流も盛んである。

又、各研究所別実施される公開日において、最新のシーズ情報が得られるのも魅力がある。

つくば研究学園都市の創世期からこれら研究所への研究設備を提供する役割を担ってきた企業も多い。具体的な業務案件があるため、産・官(国公研)連携は、比較的順調である。しかし、大規模プロジェクトや、ナノ・バイオ等の最先端分野での協力関係は少ない。

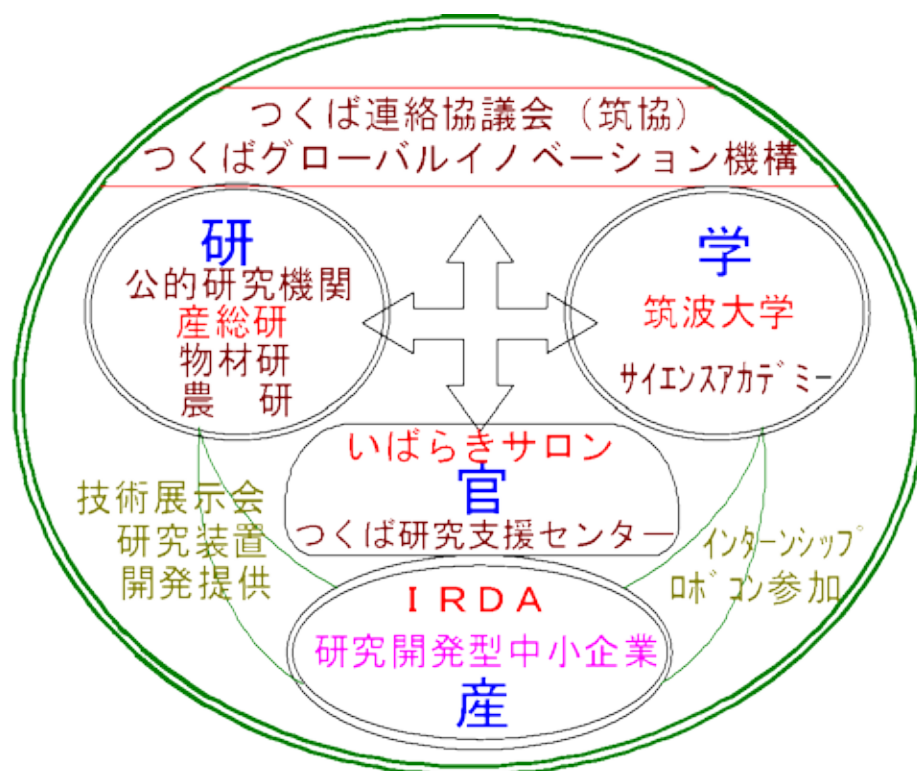
場所は、若干北になるが、原子力開発機構等の中性子ビームライン等では、IRDAのメンバーが中心となり、獲得している案件もある。研究所とIRDA企業群を結びつける役割として、茨城県が出資する(株)TCIつくば研究支援センターがIRDAの会員となっているのも、産・官連携の強みである。

3. IRDAと大学との関係

IRDAに隣接する筑波大学は、研究開発のメッカとして、つくば国際戦略特区での各種役割を担っている。特に、ロボット分野では、情報処理システム系の研究室とつながりを持ちながら、ロボコンやインターンシップ等を通じて、交流が盛んである。

ビジネスにつながる部分で、産学連携の成果を期待するのは、難しい状況もあるが、マンパワーの提供源として、又、企業にとってのシーズ源としての大学とのつながりに期待し、すでにIRDAとの間で、実施しつつあるプロジェクトもある。現時点で、IRDAが関係する産・学・官のプロジェクトは、未だ無いため、「特区」をからめた、新しい動きを期待している。

つくば産学官連携マップ



注：本図は、組織間のつながりを示すマップであり、組織図ではない。

4. 展望

本稿では、つくばにおける産・学・官の連携を、企業の側から、俯瞰すべく努めた。既に、学(筑波大)・官(産総研)間では、人的交流を含め、盛んの様である。しかしながら、今後の課題として「産」を含めた、三者の協力が必要となる特区で活動を通じて、新たな案件への参加をIRDAでも積極的に推進していく予定で、そのプラットフォームとして期待されるのが、筑波研究学園都市交流協議会（筑協）とその下での「つくばグローバルイノベーション推進機構」でありIRDAもその流れに沿って、プロジェクトを提案していくことを検討している。

「つくば」は、日本の未来を実現するための実験都市としての役割を期待されている。このため、今後もインフラの整備を含め、資金投資が必要である。

エネルギー政策の動向にもよるが、ECOをキーワードとした新技術開発を推進するため、人材の育成を目指した産学官連携に積極的な対応をしていきたい。

末尾に、本執筆者の所属企業であるツクバリカセイキは、筑波研究学園都市創生期の1984年創業で主に流体計測システムの開発・受託を行っている。茨城県では、研究開発型ベンチャーとしての認定を受けている。

<http://www.trs-jp.com> mail: nakayama@trs-jp.com